

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54 (電話) 011-875-2522		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年 10月10日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】 ( 19年 8月 17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24人	常勤 24人 非常勤	人 常勤換算 21人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1~3	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~42,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円	
敷金	有(家賃の1か月分)	暖房費(11~3月)	10,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,240 円	

### (4) 利用者の概要 ( 10月 10日現在 )

利用者人数	26名	男性	3名	女性	23名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	8	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 82.9歳	最低	65歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医法) 誠医会 よつばクリニック、さくら歯科クリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの開設が平成14年で、地域のグループホーム間ではキャリアがある先駆的なホーム運営がされています。居室、居間や食堂も十分な広さを有しており、家族のレストルームも備えられているなど訪問頻度が高い家族への気配りも十分察することができます。職員は福祉施設での経験が豊富で、ホームでのケアサービスにはゆとりと安心感が観えます。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題である「活動意欲を触発する物品」「定期健康診断」「トイレ照明」「食事の介助」など多くの改善が認められ、管理者及び職員の外部評価事項への取り組みは良好であります。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットごとで、環境条件の異なるなかで全職員が参加して作られた自己評価は良いことですが、出来上りの自己評価が一本化することで具体的な課題が見えなくなる恐れが危惧されます。各ユニットごとの課題解決のため自己評価のあり方について再考を希望します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの抱える課題を提供しながら、熱心な討議がされていることは会議事録で観えますが、家族会と合同開催では、課題の内容が異なることも考慮されるべきで分離した開催が望まれます。また、運営推進委員会の目的からしますと地域の住民で構成する幅広い委員の方々の参加が望まれますので、改善に向けた配慮を期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見、苦情は、家族の訪問時を利用しての聞き取りや「意見箱」の設置などで気配りされていますが、更に踏み込んだ対応が必要と思慮します。運営推進会議と合同開催の家族会の分離、家族会では家族同士だけ話し合う機会の創出、「家族ノート」の利用などさまざまな工夫により、意見や苦情の収集に努めながらより良いサービスの改善を図られるよう期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会など地域の理解のもと、敬老会、夏祭りなどの地域イベントに積極的に参加されているほか、地区の小・中学校との交流も盛んに行なわれています。ホームでは更に一歩進めて、利用者が地域住民の一員として可能な役割、参加を模索しており、それら取り組みの成果に期待します。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来から地域と一体化となったホーム運営を企業目標としています。今回、運営理念を見直しながら、地域密着型サービスの役割とより向上を図るため努力しています。職員全員の確認及びホームページや機関紙で啓発をしています。	○	ホームでは、ホームページや機関紙などで啓発を行いつつ、これまで以上に地域に密着したサービスの質の向上を目指しており、理念の定着とその取り組みと成果に期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間では、日々のミーティングや毎月開催の勉強会で運営理念の確認と実践に向けた共有を図っています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会、地域の夏祭り行事には利用者の多くが参加しています。また地区内の小・中学校の生徒による「でっち奉公」や「キャリアスタート」といった活動にも同調しながら、地域との交流が図られています。	○	ホームでは、地域との交流から更に一歩進めて、利用者が地域住民の一員として生活できる活動、役割を模索しており、それら取り組みに大いに期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の項目について「気づき」などをKJ方式により集約を行なうなど、評価の意義と共有に仕組みが見られますが、条件の異なるユニットごとの問題の把握には至ってはいません。	○	自己評価は、ホームでの一本化ではなく、ユニットごとに作成され、具体的な取り組みもそれぞれの現状に合わせたものであることが望ましく、次年度に向けた改善への対応を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの現況、地域との関わりなどの意見交換がされているものの、家族会と同時開催がされているため、会議の内容に偏りがみられます。また、外部からは町内会長さんだけの出席が見られるなど、地域の幅広い方々の意見交換には不足感を覚えます。	○	忌憚のない家族の意見要望はホーム運営にとって大切であり、その意味では家族会全体の会合は別な機会が望ましく、また、運営推進会議には、町内会長さんは無論のこと、地域の婦人部の方々、民生委員更に同系の介護付有料老人ホーム職員、など幅広い地域住民の参加が望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市で行なわれる連絡会議に出席して市の担当職員と意見交換を行うほか、区が行なう認知症予防教室には、協力して認知症に対する現状発表なども行ないながら、市担当者との連携を深めています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、金銭管理の報告に加えて、利用者のホーム生活の様子を知っていただくため、「あさひの家新聞」やホームページ開設、また「家族ノート」を作るなどきめ細やかな配慮がありますが、新聞の紙面一杯の写真、使用する文字の大きさなど改良や工夫が必要と思われます。	○	家族との絆をより一層強めるため、「あさひの家新聞」は大きな存在であると考えますので、見やすく、読みやすい紙面づくりの改良取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時には、意見、要望、苦情を聞く、また、意見箱を設置して意見等の収集をし、更に家族会で意見交換を通してサービスの向上を図るなどしていますが、運営に関して意見等の反映には不足感を覚えます。	○	「家族ノート」は現在、ホーム側の情報提供のみとなっており、家族への問いかけなどして意見、要望が書きやすい工夫が必要です。また、運営推進会議と併せて行なわれている家族会の会合も分離して開催するなど、家族の意見、また、家族同士の話し合いの場を作る配慮が必要であり改善の取り組みを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などで、利用者の馴染みや信頼関係が損なわれないよう、できるだけ異動などを避けるよう心掛けていますが、止むを得ない事態では、管理者はケアマネジャーと連携をとりながら利用者のダメージ軽減を図っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のサービスの質の向上を図るため、認知症に関わる研修やケア学会などに出席しております。これら外部での研修参加者は、ホームで行われる月1回の勉強会や全体会議で報告するなどホーム全体で共有できるようにしてレベルの向上を目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の連絡会議など、また、各種研修会に出席しての同業者間の交流はあるものの、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携には到っておりません。	○	他のグループホームへの見学や相互研修での事例検討を通して、ホーム運営、サービスへの見直しは必要であり、職員自身の意識改革にも役立つもの考えられます。ネットワークを利用した交流の創設など取り組みを期待します。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族には、入居を前提としたホームの見学をしていただきホームの雰囲気を知っていただくようにしています。また、他の施設等からの転居の場合は、関係した医師、看護師などと連携をとりながら安心して暮らしができるように配慮しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者への職員の声掛けは、度の過ぎた丁寧さのない普段の話しかけがホーム内の随所で視うことができました。利用者の笑顔を引き出し、共に喜び合う温かな関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の状況の変化の中で、声掛けをして思いや意向の適切な把握に努めています。利用者の生活歴も勘案して、時折、引用しながら希望を聞きだすなど一つ一つ丁寧に努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者及び職員は、利用者の日常生活から得られる意向や家族の要望を共有しながら、利用者のためのケアプランの作成が行なわれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しスパンは3ヶ月としていますが、家族の要望や利用者の状況変化に即して、随時適切な検討と見直しが行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の負担軽減となる受診、入院の回避、早期退院への支援、通院支援、また、輸液の医療処置を受けながらのホーム生活の継続など利用者の状況、家族の要望に対して臨機応変の対応をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望するかかりつけ医での治療が受けられるように、家族との協力体制を持ちながら通院の支援を行なっています。また、ホームでは提携医療機関の協力を得て2週間に1度の往診と看護師による毎週1度のホーム訪問により健康管理に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際には、利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、家族と話し合いがもたれており、「重度化した場合の対応に係わる指針」により意思確認を取っています。また、かかりつけ医とも十分な連携が保たれ、適切なアドバイスが得られる体制が築かれています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間では、勉強会や全体会議のなかで利用者のプライバシー確保について学び、確認し合っていますが、運営推進会議と合同の家族会での利用者個人の情報提供、また、面会簿の記入方法ではプライバシーを損ねる場合があります。	○	運営推進会議とは区分された会議の開催が望ましく、更に家族会だけの会合であっても利用者個人の情報には十分な配慮が必要です。また、面会簿に関しても家族への配慮も講じながら改善を加えるなど、プライバシーの確保についての取り組みが望まれます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは基本的な一日の流れはあるものの、それに左右されることのない利用者本意の体調に合わせた暮らしができるよう支援しています。ホームの広い空間の中でゆったりとした利用者のマイペースの時間が経過しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度（料理の下ごしらえ、配膳）及び片付けなど可能な限り利用者が参加して行なわれ、食事は職員が利用者と共に楽しい会話をしながらさりげない介助がされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴についての情報を把握して、時間や湯の温度など利用者にあつた対応をしています。毎日の入浴、また、夜間入浴にも対応して楽しい時間を過ごせるよう配慮がされています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園作業、玄関周りの清掃、居間などの掃除機掛け、洗濯物たたみなど、利用者それぞれが参加できる役割を楽しみながら行なわれております。また、ビデオやCD、カラオケなども楽しんでおり職員は好みを熟知しながら支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物などの外出は利用者の楽しみの一つであり、天候や利用者の体調に合わせて日常的に行なわれています。また、ホームの車両を使用したドライブで車椅子の利用者にも参加できるよう配慮されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関脇のスタッフルームからの見守りが徹底されており、ホーム内ではエレベーター利用でユニット間の交流もあるなど、鍵の掛けない自由な暮らしの支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対応しての細やかなマニュアルが整備されており、消防署の協力を得て年2回の避難訓練は夜間を想定された訓練も含めて実施されています。また実際の避難に際しては、日頃から地域住民の協力を要請するなどして安全面の配慮がされています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は日々記録され、職員の支援は正確に行なわれています。食事は利用者それぞれの好みや量、お粥、刻み食など体調に合わせた様々な配慮があり、隣接デイサービスの管理栄養士の定期的指導も受けながら栄養のバランスにも配慮がされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のほかに広いダイニングがあり、ホーム全体がゆったり感に満ちています。廊下や食堂には季節に合った利用者の作品が飾られているなど、家庭的な雰囲気に浸れる空間の中で利用者のゆったりとした時間の経過を見ることができました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベット、箆笥、鏡台、仏壇など利用者の使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれており、落ち着いた安心できる空間となっています。ベットなどの配置も本人、家族の希望が取り入れられ個性のある居室となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。